

創業100周年を迎えて

ホソカワミクロン株式会社
企画管理本部 企画統括部 経営企画部

次長 東 充延

1. はじめに

当社は、本年4月18日に創業100周年を迎えることができました。これも取引先の皆様をはじめとする関係各位の長年にわたるご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。本稿では、当社100年の礎となった歩みを簡単に紹介します。

2. 100年の歩み

当社の歴史は、1916（大正5）年、大阪市西区に立ち上げた小さな鉄工所「大阪タービン水車製造所」から始まりました。そして、創業者 細川永一が1930（昭和5）年に発明した画期的な微粉碎機「ミクロンミル」を礎に独自の粉体技術の道を一筋に歩んできました。この微粉碎機は、医薬品や化粧品、鉱物や金属粉、食品など様々な分野で用いられ、国の産業発展に寄与しました。中でも化学工業界への貢献は特に大きなものでした。その後、当装置は1951（昭和26）年に微粉碎能力と製品純度の向上を実現する「スーパーミクロンミル」へと進化を遂げ、事業展開に大きな転機をもたらしました。

1950年台半ばからは、国際的な展示会にも出展を開始し、1960（昭和35）年にロンドンに初の海外拠点を設立しました。また、1960年台には微粉碎機「スーパーミクロンミル」と1955（昭和30）年に発明した分級機「ミクロンセパレータ」を用いたクロスライセンス契約によって、海外の優れた粉体処理装置を導入し、国際展開を本格化しました。そして、1980年代にはこのク

ロスライセンス契約の縁から世界の名だたる粉体技術企業をM&Aによって傘下に収めました。これにより、導入機を含めた特徴的な装置を峰とし、その周辺技術を裾野に配した粉体技術連峰の形成を通して業容を拡大し、世界に事業を展開する粉体技術の総合企業へと独自の進化を遂げてきました。企業や技術、人、文化までも融合し、新たな価値を創造する“フュージョン経営”を目指したのです。

今日に至るまでには、1970年代のオイルショックや1990年台初頭のバブル経済の崩壊、2008（平成20）年のリーマンショックなど、厳しい環境にも曝され、事業の再編や人員削減などの痛みを伴う改革を余儀なくされたこともありましたが、これらを教訓に、近年は国内外拠点の整備や組織改組による事業基盤の強化と将来の技術開発や企業成長を支える人材の育成に努めてきました。このような中、2000（平成12）年から新たに取り組んだマテリアル事業も収益事業に成長するなど新しい体制や事業の芽も育ってきました。

このように当社の歴史は、微粉碎機「ミクロンミル」から伸びた一筋の蔓が、やがてその先に多くの瓢をつけていく様子に例えることができます。

2016（平成28）年4月21日に取引先やOB・OG社員などを招待して開催した「創業100周年 感謝の集い」で挨拶に立った社長 細川は、感謝の意を表すると共に、当社グループはこれからも雄大な粉体技術連峰の形成を目指し、信頼される企業グループとして世界の産業の発展に貢献できるよう励んでいくと抱負を述べました。世

界の産業の発展を縁の下から支える粉体技術を担う企業として、産業界のニーズに迅速に応え、グループ運営を最適化することで収益力と競争力のある企業体へと進化を続けていきたいと考えています。

3. おわりに

創業100周年を迎えるに当たって掲げた「粉とともに100年、粉体技術で世界を変える」のスローガンを肝に

銘じ、100年の歴史や現在の立場に胡坐をかくのではなく、創業の精神に立ち返って挑戦し続ける気概を持ち、「粉体技術を通して社会に貢献する企業」を実践していく方針です。創業100周年を起点とし、社員一同、新たな歴史を刻む真のトップ企業へと邁進する所存です。

これからも、ホソカワミクロンをどうぞよろしく願います。



写真1 創業100周年「感謝の集い」の様子



写真2 社史(日本語版・英語版)



写真3 創業100周年を記念してリニューアル発売した化粧品・育毛剤の新製品